

第 **15** 号…平成30年1月

協会だより



一般社団法人 関東地域づくり協会

- 3 新年のごあいさつ
4 成年 年男、今年もよろしくお願ひします。

- 6 関東地域づくり協会からのお知らせ
第30回 道のある風景写真コンクール

- 8 東京臨海広域防災公園合同訓練に参加
平成29年度 関東防災エキスパート講習会を実施しました
サイタマ道の駅フェスタに参加
地域づくり研究所 活動報告

- 10 プロジェクトK③
交通渋滞を解消し、水問題も解決
国道50号 東前橋拡幅

- 14 関東の河岸めぐり②
潮来河岸 茨城県

- 16 関東の土木遺産③
所野第一発電所外山原取水施設 栃木県

- 18 会員のひろば
ゆるくながく 蕎麦打ちは楽し

- 19 会員情報
新会員紹介・お悔やみ
編集委員会だより

- 20 ピックアップ 関東の道の駅①
道の駅を拠点に、
常陸太田の農業と観光を盛り上げる！
道の駅「ひたちおおた」



表紙の言葉

越智優心さん（神奈川県相模原市立相原中学校2年生）

際どい曲がり角

この写真は当会が主催する第30回「道のある風景写真コンクール」中学校の部の金賞に選ばれた神奈川県相模原市立相原中学校の越智優心さんの作品です。

「この写真は、僕が毎年楽しみにしている、清川村の『青龍祭』という雨乞いの祭りです。2頭の龍が村を練り歩くのですが、田畑や民家の間の狭い道を村の人達が協力して通り抜ける様子は、思わず息を止めてしまう瞬間で、シャッターを切りたくなる瞬間でもあります」。

カーブする道で、大勢の人で引く巨大な龍の迫力をとらえた点が評価されました。

理事長あいさつ 新年のごあいさつ

(一社) 関東地域づくり協会 理事長
奥野晴彦



平成30年の年初にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

昨年は新しいアメリカ大統領の就任、世界各国での選挙などがあり、年頭には「今年は何が起こるか分からない、何が起ころうとも不思議ではない」といわれ、そのとおり、さまざまな出来事がありました。中でも、我が国の近海を北朝鮮からのミサイルが飛び交い、核実験が行われるなど、重大な事件が多発した年でもありました。今年も引き続き何が起こるか分からない年になりそうです。

国内では昨年10月に衆議院選挙が行われ、与党の安定多数確保という結果になりましたが、この選挙を契機に政界再編がなされようとしています。我が国周辺をさまざまな渦が取り巻く中、しっかりとしたかじ取りが求められます。また、どんな荒波にも耐えられるよう、しっかりとした国土づくりが今まで以上に必要とされています。

一方、昨年も災害の多い年でした。7月の九州北部豪雨をはじめ、相次ぐ台風による被害など、水害・土砂災害が多発しました。直轄河川の被害もありました。台風については、規模、発生時期、コースなど、今までに経験のないものも多くありました。このような災害への対処をはじめとして、しっかりとした国土形成のためにも、社会のさまざまな基盤（インフラ）をしっかりとしたものにしなければなりません。

我が国のインフラは、これまでの努力の結果、充実してきております。災害による被害も軽減されていることも事実です。しかしながら、まだ質、量ともに十分というレベルには達していません。頻発する渋滞や突発的な事態に対処し得る道路ネットワーク、これまでとは規模、形態の異なる自然災害に備えるための安全・安心基盤もまだまだ充実していく必要があります。また蓄積したインフラが健全性を保ち、機能を十分発揮するための維持、管理もおろそかにできません。

平成30年度予算の政府案では、公共事業費はここ何年かと同様、微増となっております。また、同時に閣議決定された29年度の補正予算でも、一兆円規模の公共事業費が盛り込まれています。これらの予算が速やかに審議され、早期に各種インフラへの手当が実施されることを期待しております。

関東地域でも、昨年は圏央道茨城区間が全通し、また八ッ場ダムの本体工事が始まりました。さらに今年は東京外環の千葉区間の供用開始が予定されており、着々と整備が進んでいます。今後とも、環状道路をはじめとする道路ネットワー

クの充実、安全・安心のための堤防強化等の事業推進が望まれます。このような根幹施設の整備管理を担当するだけでなく、災害に際しテックフォースを派遣するなど、安全で豊かな地域づくり、国づくりにおける整備局の役割は、ますます増大しているといえるでしょう。

一方、このような活動を支える建設関係業界の高齢化、人手不足が急激に進んでいます。また、整備局においても定員の減少により要員不足、特に若年層の不足が深刻と聞いております。官民間わず効率的な執行体制の確保、そのための技術開発や新しい技術の活用推進が強く望まれています。

このような情勢の中、当協会は、平成25年から進めてきた発注者支援業務等の関東建設マネジメント（株）への事業継承を終え、昨年、管理部門の人員も引き継ぎました。協会、会社ともに、独立した組織、体制を整えたことになります。これからは、それぞれの担当する分野で、それぞれの役割、使命を果たしていくこととなりますが、組織は別でも、その使命は共通しています。すなわち「蓄積した技術、ノウハウを活用し良好なインフラの整備、管理を支援し、より良い地域づくり、国づくりに貢献すること」です。

この使命を果たすため、協会としても今後とも強力に各種業務を展開していく必要があります。第一に、公益事業をこれまで同様しっかりと進めていくことが重要です。防災エキスパート活動をはじめとする防災事業、地域活性化に資する事業、環境保全に関する事業、広報に関する事業などを推進してまいります。特に、建設事業の生産性向上のため、技術開発、新技術活用が求められていることから、これに関する事業をこれまで以上に進める必要があると考えています。

次に、自治体支援も含め、インフラ整備、維持管理に関するマネジメント事業（PPP）、インフラメンテナンスのためのデータ整備や対策立案などの支援事業、インフラの品質を確保するための品質証明事業などの新たな要請に応える事業に積極的に取り組んでまいります。これらの事業の一部は既に手がけているところですが、新たな分野への挑戦でもありますので、本格的に取り組むためには、先輩諸氏から引き継いだ技術、ノウハウをさらに高度なものにしていく必要があると痛感しております。職員一同全力を挙げてまいりますので、今後とも皆様方のご支援、ご協力を心よりお願いいたします。

終わりに、今年一年が皆様にとり良い年となりますよう祈念いたしまして、年初のごあいさつといたします。

2018

戌年

年男、
今年もよろしく
お願いします。

これまでの 仕事を振り返る

昭和21年生まれ
男澤和博さん

(株)ティーネットジャパン
元江戸川河川事務所事業対策官



あけましておめでとうございます。
います。

十二支年男を重ねると、抱負より振り返ることの方が多くなります。ここで改めて、国土交通省38年間の体験を少し記述させていただきます。

<京浜>昭和49年9月狛江市猪方地先で台風16号出水により堤防が破堤し多数の民家が流失、目前で自然の驚異を体験。

<守谷>昭和56年稲戸井調節池、圍繞堤とその前面低水護岸を同時施工中、円弧すべりで出来高9割がすべて沈下破壊。

<甲府>昭和58年急流河川釜無川では増水時、横断水位が片勾配で流下し堤防を洗掘破壊被災。

<京浜>昭和63年東京から1740kmの沖ノ鳥島災害復旧工事（保全）。保全委員会の開催と併行で工事施工。

近年は、気候変動の影響か、線状降水帯による異常出水被害が多く発生しています。これまでの体験が少しでも生かされたら幸いで、今年一年が穏やかな年となることを信じて願っています。

最後に、故郷熊本地震の一日も早い復興を願ってやみません。

年男にあたり

昭和33年生まれ
齋藤守さん

(一社)関東地域づくり協会業務企画部次長
元関東地方整備局企画部総括技術検査官

新年あけましておめでとうございます。

昨年6月に協会に採用され、あっという間に新年を迎えることになりました。周りに過去の上司が沢山いることもあって、いつまでも後輩であり再就職した感覚はないのですが、委託を受ける立場の戸惑いはあります。どんなことかは、皆さんよく分かると思いますので特に書きません。

若い頃は病気知らずだったこともあって、市販薬で済ませることができましたが、50歳中盤から体のあちこちに故障が出てくるようになり、病院のありがたさがよく分かるようになってきました。

一昨年からは息子とゴルフを一緒に楽しむようになり、月1回は一緒にラウンドしています。以前は、年に3～4回でしたが、健康増進を兼ねて、酒たばこはほどほどに、女房孝行を忘れず、年30回を目標に体力に見合ったゴルフを楽しんでみたいと思います。

僕らしい花の咲かせ方で、僕らしい花を咲かせて、いくつになっても「よう、そこの若いの!」と呼ばれるよう過ごしていきたいと思っています。

最後に、今年が皆さまにとって「ワン ダフル」の年でありますように、今年もよろしくお願いします。



妻と一緒に

2017年「今年の漢字」は

北でした。

(公益財団法人 日本漢字能力検定)

北と名がつくと、
いろいろと大変なことが
起きました。

4回目の年男

昭和45生まれ

畑中正義さん

(一社)関東地域づくり協会
業務企画部技術主任



氷川神社で

新年あけましておめでと
うございます。

早いもので、今年で4回
目の年男を迎えることになりました。

平成10年に正職員として採用されて20年、さまざまな
業務に携わり、仕事の上でも私生活でもいろいろな人に
助けられ、ここまでやってこれてきました。

戌年生まれが総人口に占める割合は7.7%で、十二支の
中で最も少ないそうです。戌年の人の性格をインター
ネットで調べたところ、全体像は、「頑固、誠実、苦勞
の星」となっていました。私に当てはまっているかは微
妙なところです。

最近、体力・気力・記憶力がかなり落ちてきたと感
じることもあります、少なくとも気力だけは振り絞
り、これからも頑張っていきたいと思います。

本年も皆さまのご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い
いたします。



昨年を振り返る

日本の出来事

- 2月 沖縄県辺野古で飛行場移設工事着手
ワシントンで日米首脳会談
プレミアムフライデー初実施
- 3月 栃木県那須町のスキー場で雪崩。8人死亡
- 4月 福岡市で3億8400万円強奪事件
国内最大級の草食恐竜全身化石発表
- 5月 関西電力高浜原子力発電所再稼働
南スーダンでの自衛隊国連平和維持活動終了
- 6月 今上天皇の退位を認める天皇即位等に関する皇
室典範特例法成立
日本郵便のハガキ62円に値上げ
上野動物園のジャイアントパンダ・シンシンが5年
ぶり2度目の出産(シャンシャンと命名:9月)
将棋の藤井聡太四段が新記録の29連勝達成
- 7月 東京都議選
九州北部豪雨により大きな被害
- 8月 公的年金の加入期間が10年に短縮
- 9月 眞子内親王が婚約内定を発表
桐生祥秀氏が陸上100mで9秒98を記録
- 10月 第48回衆議院議員総選挙
- 11月 福岡ソフトバンクホークス日本シリーズ制覇
第98代内閣総理大臣に安倍晋三氏選出
トランプ米国大統領、初来日
- 12月 羽生善治氏が史上初、永世七冠

世界の出来事

- 1月 国連事務総長にグテーレス氏就任
アメリカ合衆国大統領にトランプ氏就任
- 2月 南スーダンで大規模飢饉発生
- 4月 米中首脳会談開催
- 5月 フランス大統領にマクロン氏就任
大韓民国大統領に文在寅氏就任
第43回先進国サミット開催
- 6月 アメリカ、パリ協定から離脱表明
イラク政府がモースル奪還
- 7月 第12回G20サミット開催
- 8月 北朝鮮が弾道ミサイル発射。11月にも発射
- 9月 北朝鮮が核実験を実施
2024年夏季オリンピック・パリ決定
- 10月 ノーベル文学賞にカズオ・イシグロ氏
- 11月 パラダイス文書公開

第30回 道のある風景写真コンクール

昭和63年にスタートした「道のある風景写真コンクール」は、今年で30回目を迎えました。今回も、私たちの生活に欠かせない「道」をテーマに。小学生から高校生まで多数の応募がありました。

応募枚数は4,628枚、応募者数は2,428人。写真家の木村恵一先

生と熊切圭介先生、熊切大輔先生、そして関東地方整備局道路部の早野英人道路情報管理官、当会の後藤敏行専務理事の5名による審査で入賞作が決定しました。

入賞作品は関東の道の駅、千代田区役所ロビーなどで展示を予定しています。



審査風景

主催：(一社)関東地域づくり協会／協力：ビックカメラ

金賞

「千この田」

小学校の部

松田春花さん

千葉県 勝浦市立勝浦小学校4年生



「際どい曲がり角」越智優心さん

神奈川県 相模原市立相原中学校2年生

中学校の部



「いちょうと人々」

若山遥香さん

東京都 都立芦花高等学校2年生

高等学校の部

学校賞

小学校の部

茨城県 茨城大学教育学部附属小学校

中学校の部

埼玉県 さいたま市立大成中学校

高等学校の部

東京都 都立芦花高等学校

銀賞



小学校の部

「水でっぼうでピュー!」

園部柚玲彩さん

茨城県 茨城大学教育学部附属小学校1年生

小学校の部

「水の道」大島琉弥さん

茨城県 茨城大学教育学部附属小学校4年生



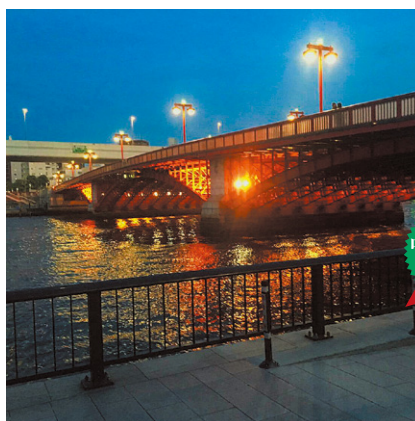
中学校の部

「あ、あぶないっ!」

堀江陽奈さん

埼玉県 さいたま市立大成中学校3年生

中学校の部



「川の道うかぶ吾妻橋」

倉富未侑さん

千葉県 松戸市立第五中学校2年生



高等学校の部

「夕歩道」川村梨奈さん

千葉県 県立野田中央高等学校3年生

高等学校の部



「馬への道」

長倉由佳さん

山梨県 駿台甲府高等学校2年生

ビックカメラ賞



小学校の部

「ぼくもお散歩したいな」

嶺井真南人さん

埼玉県 草加市立高砂小学校3年生

中学校の部

「羊のかけっこ」村田瑠衣さん

千葉県 松戸市立第五中学校1年生



高等学校の部

「交差点」戸田怜覧さん

東京都 都立工芸高等学校3年生



東京臨海広域防災公園合同訓練に参加

11月6日（月）、東京臨海広域防災公園にて、東京臨海広域防災公園合同訓練が実施されました。同公園は、平常時



合同訓練の様子

は憩いの空間として開放されているほか、防災体験学習施設「そなエリア東京」を併設し広く国民に活用されていますが、大規模災害が発生した場合には、政府の緊急災害現地対策本部が設置されます。

今年度が4回目の開催となるこの合同訓練は、内閣府や国営昭和記念公園事務所、防災エキスパート等が参加し、大規模災害発生時に速やかに防災初動対応に移行できるよう、関係者が一堂に会して訓練することを目的としています。

当日は「土日祝祭日の14時に東京湾を震源地とするM7.3の地震が発生、東京23区の震度は7」という想定の下、施設の被災状況確認および情報伝達を中心に訓練が実施されました。訓練後は参加者による意見交換会も行われました。

平成29年度
関東防災エキスパート講習会を実施しました

11月から12月にかけて、各地で平成29年度の「関東防災エキスパート支部別講習会」を実施しました。

12月6日（水）には「四支部合同講習会」（大宮支部、千葉支部、東京支部、神奈川支部合同）を開催し、関係者約200名が参加。以下の要領で情報提供や講習を行い、東京臨海広域防災公園の施設見学も行いました。

講習会次第

- (1) 国土交通省の防災・減災施策
——関東地方整備局における取り組み
竹本隆之氏（関東地方整備局企画部防災課長）
- (2) 「H27関東・東北豪雨」鬼怒川堤防決壊に関する対応
堤盛良氏（一般社団法人関東地域づくり協会 業務企画部担当部長、大宮支部長）
- (3) 阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた首都直下地震の備え
岡山和生氏（一般社団法人関東地域づくり協会 地域づくり研究所客員研究員）



東京臨海広域防災公園にて開催された四支部合同講習会（12月6日）

平成29年度関東地方防災エキスパート講習会実施日

支部名	登録者数*	参加者数*	実施日・時間	場所	内容
水戸支部	61名	25名	11月17日(金) 10:00～15:30	茨城県職業人材育成センター	講習会・現地視察
宇都宮支部	46名	23名	11月22日(水) 10:00～16:00	ブライダルパレスあさの	講習会・現場視察
甲府支部	45名	26名	11月28日(火) 10:00～16:30	ベルクラシック甲府	講習会・現場視察
高崎支部	86名	33名	11月29日(水) 10:30～16:30	群馬県市町村会館	講習会・現場視察
長野支部	40名	19名	12月 1日(金) 10:30～17:00	長野市生涯学習センター	講習会・現地視察
大宮支部	224名	65名	12月 6日(水) 10:30～15:30	東京臨海広域防災公園 [そなエリア東京]	講習会・ 防災公園視察
千葉支部	216名	58名			
東京支部	39名	6名			
神奈川支部	59名	19名			
四支部計	538名	148名			
合計	816名	274名			

※防災エキスパート登録者数、参加者数

サイタマ道の駅フェスタに参加

11月10日（金）、11日（土）の2日間にわたり、埼玉県越谷市のイオンレイクタウン木の広場・水の広場にて、今年も県内の道の駅間の連携強化を図ることを目的として「サイ



タマ道の駅フェスタ」が開催されました。

当会はこれを後援し、当会が事務局を担当する防災エキスパート制度や、支援活動を行った「東日本大震災」「関東・東北豪雨」における取り組みを、パネル展示により紹介しました。また、昨年の熊本地震で防災拠点として活用された九州の「道の駅」についてもパネルで紹介しました。

大宮国道事務所も参加し、道路インフラの老朽化の現状や対策などに関するパネル展示が行われました。

地域づくり研究所 活動報告

「地域づくり研究所」は、地域の人々を対象とした社会資本に関する啓発活動、地域の防災ネットワークの構築支援、地域創生（地域づくり）支援および調査研究等の活動により国土の安全、安心、地域の活性化に寄与することを目的として、平成26年9月に活動を開始しました。

今年度も、活動の一つである有明にある東京臨海広域防災公園内の防災体験学習施設に来館する小中学生に対する「防災語り部」では、「地震等の災害の歴史」「地震の強さ、発生の仕組み」「地震によりどのようなことが起きる

のか（被害の規模）」「どう地震に備えるか」などを客員研究員が解説。

また今年度は、「関東防災エキスパート四支部合同講習会」でも、客員研究員が講演を行いました。

■ 防災・減災に関する活動

- ・千葉商科大学市民講座「災害危機管理講座」講師
12月2日（土）宮尾博一氏
「近年の水害と江戸川の防災」
- ・「関東地方防災エキスパート四支部合同講習会」講師
12月6日（水）岡山和生氏
「阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた首都直下地震の備え」
- ・東京臨海広域防災公園
防災体験学習施設に来館した子供たちを対象とした「防災語り部」
12月 5日（火）猪股純氏（対象：江戸川区立第四葛西小学校6年生）
12月20日（水）岡山和生氏（対象：杉並区立富士見小学校6年生）



東京臨海広域防災公園に来館した子供たちに、「防災語り部」として地震について解説する岡山氏（12月20日）



交通渋滞を解消し、 水問題も解決

国道50号 東前橋拡幅



会員の方々に携わったプロジェクトの地を再訪していただき、
苦勞や喜び、エピソードさらには事業全体の効果などを語っていただく本シリーズ。
第33回は、群馬県の国道50号東前橋拡幅事業に携わった
細谷悦雄さん、小澤敦夫さんと現場を訪ねました。



小澤敦夫さん

関東建設マネジメント株式会社高崎
支店指導役。昭和45年入省、平成
20年退職。

細谷悦雄さん

東鉄工業株式会社土木本部建設技
術部建設土木担当部長。昭和44年
入省。平成16年退職。





② 地権者から、既に完成していた歩道の擁壁を「低くしてほしい」と要望があり、工事は一旦中断。早期再開のため、きちんと説明し納得してもらう必要があった



① 群馬県、栃木県、茨城県を通して太平洋岸に通じる国道50号。これだけの交通規模の国道としては初めてリサイクル材（コンクリート、アスファルト）を使用した

③④ 田畑に必要な水を確保しながら、豪雨時には桃ノ木川に排水するための側水路を整備した。耕作期や豪雨時にはハンドルを操作して水量を調節できる（④は施工中の様子）



国道では他に先駆けて プレキャスト製品やリサイクル部材を使用

一般国道50号は群馬県前橋市で国道17号から分岐し、桐生市、足利市、小山市、下館市などを経て水戸市へと至る、北関東の重要な幹線道路である。昭和48（1973）年に事業化された一般国道50号東前橋拡幅は、前橋市天川大島町から同市今井町までの延長約5.1kmにおいて現道を拡幅し、4車線化する事業だ。建設中であった一般国道17号上武道路との接続後のさらなる交通量増加を見越し、前橋市街地の渋滞解消を大きな目的として建設が進められた。

起点付近の野中地区は水はけが悪く、豪雨時に農地や家屋の冠水被害が発生することもあり、地域住民からは道路拡幅により湛水が一層悪化するのではないかとの懸念も挙がっていた。そのため、耕作に水を利用しながら豪雨時には桃ノ木川に排水できるよう、道路北側に桃ノ木川まで通じる側水路を設けることにした。

前橋駅に近い起点側では一部工事が進んでいたが、本格的な用地取得に入ったのは昭和60（1985）年度。平

成4（1992）年度の供用を目指して施工が進められていた平成2（1990）年4月、細谷悦雄さんは建設監督官として、小澤敦夫さんは設計第一係長として高崎河川国道事務所に赴任した。

お二人にとって一番記憶に残っているのが、着任早々、地域住民からの苦情で工事が中断したことだという。細谷さんはこう振り返る。

「前年度に施工が終わっていた区間で、道路端の擁壁を見て、道路の位置が高過ぎるので50cmくらい下げてほしいというのです。いよいよ本格的な工事に入と思って着任したのですが、一旦中断して、地域の方々に理解してもらうために奔走することになりました」

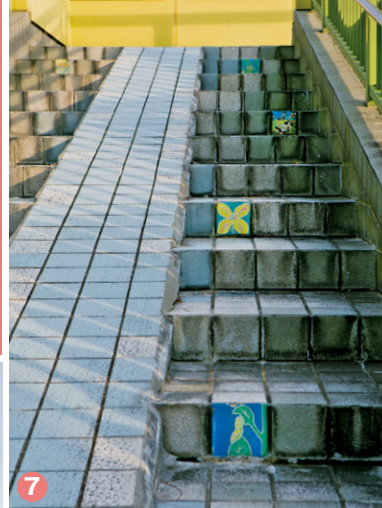
もちろん施工前に地域への説明は十分行われていたが、実際に目にして不安を抱いたのだろう。

道路の高さにはいくつか理由があった。その一つが、国道の下に設ける用排水管の大きさだ。道路北側の側水路から南側に通じる管だが、通水量を確保し管理しやすい大きさの管を設置するためにぎりぎり抑えても道路がこの高さになるのはやむを得ないことだった。前任者から特に引き継ぎはなかったため、このようなことを資料か



⑤ 昭和62年頃、現場での細谷さん

⑥ 拡幅に合わせ架け替えた女屋歩道橋には、付近を流れる桃ノ木川をイメージしたモニュメントを設置



⑦ 階段部分には近隣の小学生が描いた絵タイルを埋め込んだ

⑧ 歩道橋の完成式典



らまとめ、説明会で話して納得してもらえたと細谷さんは言う。

「説明会は6月2日の土曜日だったと記憶しています。実は直前の5月31日に長男が生まれたので、無事誕生したことと、工事がようやく進むのと、併せてホッとしたのを覚えています」と小澤さんも27年前を思い返す。

平成4年度の完成を目指す中、2カ月余りの中断は大きい。また、もともと施工区間の起点側は沿道に家屋や店舗が多かったことから、効率的な施工を目指し一層の試行錯誤がなされることとなった。そこで利用したのが、工場で製作されたプレキャストコンクリート部材だ。

「現場でのコンクリート打設が減りますから、品質安定、工期短縮にプレキャスト製品は有効です。国道への出入りの不便をかける日数も減るため、拡幅工事には特に適していたのです」(小澤さん)

特に地元企業が開発した路面排水を受けるプレキャスト縦断管は、県や市町村では採用されていたが、国道での使用は、この現場が先駆けとなった。

工事の特徴としてはもう一つ、平成3(1991)年4月に施行された「資源の有効な利用の促進に関する法律」(リサイクル法)の影響があった。

「平成3年9月に本省から異動して来られた桐越信事務所長は、最新事情によく通じていました。本省では当時、当会の奥野理事長がリサイクル対策を担当しておられ、情報が共有されていたのです。そこで平成4年度に本格

的に始まる舗装にリサイクル材(本線の基層まで再生アスファルト)を使用することになりました」と小澤さんは説明する。リサイクル材の使用は、これも、国道での本格的な採用としては先行事例となった。

植栽や歩道橋のデザインにも工夫を凝らし、美しい景観を形成

景観に配慮した道づくりも、この現場では重視されたことの一つ。自治体や学識経験者、地元の人々を含めた景観懇話会を設け、沿道や中央分離帯の植栽、女屋歩道橋のデザインや観音橋(桃ノ木川)・牛橋(寺沢川)・御蔵橋(荒砥川)それぞれのモニュメントなど、地域に溶け込む道路環境づくりにさまざまな意見を取り入れた。

沿道には店舗も多く、客が入りにくくなるから自分の店の前には並木はいらないという人もあったそうだが、前橋市の木である銀杏の並木はきれいに色づき、目にも優しい景観をつくり出している。

女屋歩道橋には、階段に地元の小学生が描いた絵タイルを貼り、近くを流れる桃ノ木川をイメージしたモニュメントで飾った。桃ノ木川沿いのあぜ道を、子供たちが歌いながら歩いて行く。そんなイメージを託したものだ。

馬のレリーフが埋め込まれた観音橋の施工中に、季節外れの台風が来たことも思い出の一つだと細谷さんは言う。

「平成2年12月1日だったと思います。橋脚の施工中だったのですが、台風が来てね。仮設物が流されてしまった。



⑨ 桃ノ木川に架かる観音橋は、1本(2車線)を新設。地域の歴史談話にちなんで馬のレリーフを付けた



⑩ 観音橋施工中の様子



⑪ 荒砥川に架かる御蔵橋は、古い橋を撤去して架け替えた(上り2車線供用時の様子)

⑫ 観音橋のたもとは、源義経が東街道を通った折に腰掛けたという逸話のある「義経の腰掛石」が。「もとは橋より下流側にあったのですが、地域の人に馴染んでもらえるようここに移設しました」と細谷さん



事故にはなりませんでした、こんな時期に台風かと驚きましたよ」

東前橋拡幅は、一部300mほどを残し、平成4年度末に約4.8kmが4車線供用。その後、平成13年さらに前橋駅方面の300mを整備した。現在では一般国道17号上武道路とも接続し、予想されたように交通量は増えた。北関東の内陸部から太平洋岸へと通じる、東西方向の重要な幹線道路としての役割を果たし続けている。

現場目線の細やかな指示で 施工の混乱や無駄を防ぐ

東前橋拡幅は短い区間だったが、経験した現場の中でも特に思い出深いのだと細谷さんは言う。

「長い工区の現場では複数の建設監督官で仕事を分担します。東前橋拡幅は約5kmの工区でしたので、一人で担当したということが大きいですね。例えばある現場での調整事項を即、他の現場にも反映させるなど、各施工会社が極力時間のロスを生じないように管理技術者たちとコミュニケーションを取りながら、仕事を進めることができました」

細谷さんが当時、現場で施工会社に配った資料がある。用地の境界を示す杭の打ち方や地主の確認を要する箇所、確認点などが事細かに示されており、これを見れば、施工に当たっての小さな疑問は解消される。

「設計図はありますが、細部までは決まっていませんし、

現場の状況に合わせて変更しなければならないこともあります。施工会社がいくつも入っていると、異なった判断で作業を進めてしまうこともあるため、やり直しになったり、後々管理しにくくなったりしないよう、あらかじめ注意事項をまとめて配りました」(細谷さん)

このような現場への向き合い方ができたことが、やりがいにつながっていたということだろう。

当時はお二人ともに40代。事務所の人数も今よりはるかに多い140名ほどで、互いに相談しながら忙しい日々

に臨んでいた。「当時は本当に忙しかった。よく平成4年までに完成できたと思います。いろいろ工夫した成果でしょうね。そして、細谷さんの現場での指導が抜きん出ている証拠だと思います」(小澤さん)

「他の現場を担当していた者も含め、当時の建設監督官は3人。それぞれ朝、事務所から現場に向かって夕方戻ると、一息ついてたまにはまあ一杯、ということになる。今では考えられませんがね。所長や小澤さんをはじめ、他部署の人も通りがかりに監督官室を覗いて声を掛けてくれたり立ち寄ってくれますから、そこで現場のこともざっくばらんに相談できました。こういうコミュニケーションは大事なものですよ」(細谷さん)

群馬県生まれ、現在も群馬県に住まうお二人にとって、地元での仕事はひととき感慨深いものがあったという。手入れのされた植栽を見て、ほっとした表情を覗かせた。



水雲橋

江戸川への中継地点として 華やいた潮来河岸

かつて関東地方は河川水運の発達した地域でした。その証として各地に残るのが河岸です。
それらの河岸の歴史と、現在を訪ねるシリーズ。
第12回は茨城県潮来市にあった潮来河岸をご紹介します。

北海道、東北各地から中継港、 潮来を目指して

江戸時代、千葉県佐原と並ぶ水運の要所だった潮来。北海道、東北各地から米や海産物、材木などが潮来の河岸を経由して江戸に運ばれました。

潮来は、東北諸藩の物資の中継地点としても重要な役割を果たしていました。慶安2(1649)年に仙台藩の蔵屋敷が建てられた後、津軽藩、南部藩の蔵屋敷が立て続けに置かれたといいます。市内を流れる前川筋には約3.5kmにわたり河岸が幾つも設けられ、仙台河岸や津軽河岸といった東北の地名がつく河岸もありました。

それらの河岸を総称して潮来河岸と呼ばれています。

潮来の河岸に

は、東北諸藩の年貢米をはじめとするさまざまな物資が集まり、江戸に回漕されました。最盛期には年間400艘もの荷船が出入りしたといわれています。

陸路、海路も取り入れて江戸に向かった

潮来を経て江戸に入るには、次のようなコースがあったといわれています。一つは、東北方面から太平洋を南下した船が那珂湊から^{ひぬま}酒沼に入り、海老沢海岸(茨城町)に荷揚げするコースです。海老沢海岸から潮来までは、積み替え作業が繰り返されました。馬に積み替え陸路で物資を運んだり、べか舟(小船)や高瀬舟を使い分け、北浦から潮来に出たのです。潮来から先は、現在の常陸利根川から横利根川を通り佐原に出て、利根川を遡上して関宿(千葉県東葛飾郡関宿町)から江戸川経由で江戸へ向いました。

もう一つは、奥州から南下した船が那珂湊を経て鹿島灘を乗り切り、銚子の河口から利根川を溯上し潮来に出るコースです。潮来から江戸へは一つ目のコースと同じで、佐



昭和初期の潮来。前川に架かる水雲橋。水郷潮来のシンボルとして親しまれてきた(提供:潮来市観光産業課)



前川には、約3.5kmにわたり幾つもの河岸が設けられていた。とりわけ大門河岸と仙台河岸の繁盛ぶりは目立った

水郷潮来あやめ園。6月中旬に見頃を迎えるあやめ（花菖蒲）。潮来花嫁さんとして有名な「嫁入り舟」や「水郷潮来あやめまつり大会」の会場になっている



長勝寺。参道を前川方面に真っ直ぐ行くと大門河岸跡に通じる



長勝寺近くの西円寺にある遊女の墓。水上交通の要として栄えた潮来には、延宝7(1679)年に遊郭が誕生した

上：『潮来花嫁さん』の歌で有名な嫁入り舟。交通手段として、舟が日常的に使われていた潮来ならではの風景（提供：潮来市観光産業課）
左：あやめ園にある『潮来花嫁さん』の記念歌碑

原を通り関宿から江戸に入ります。

二つのコースのうち、那珂湊から涸沼を経由して潮来に出るコースが先に開かれたといわれていましたが、近年、両コースとも初期から利用されてきたとする説が有力になっているそうです。

河岸、蔵屋敷が続々と置かれた前川筋には、遊郭が設けられ、潮来は港町として、また行楽地として繁栄しました。その賑わいぶりを証明するように、多くの文人墨客が潮来を舞台にした数々の作品を生み出しています。葛飾北斎が潮来の辺りから見える富士山を描いた『常州牛堀』や、松尾芭蕉の『鹿島紀行』が有名です。

訪れた者を虜にした潮来。現在も、「嫁入り舟」などのイベントが開催される「あやめまつり」の時期は、たくさんの人で賑わいます。今後も水郷潮来として多くの人を魅了し続けるでしょう。

（協力：潮来市観光産業課）



明治30年、
製麻工場の動力源として建設された

栃木県日光市にある東京電力 所野第一発電所は、利
根川水系大谷川^{だい や がわ}から取水する発電所の一つです。東京
電力が管理し、隣接する所野変電所を通して、日光市内
の各家庭や工場に電力を供給しています。今回ご紹介す
る所野第一発電所外山原取水施設は、所野第一発電所^{とやまがはら}
の関連施設です。

所野第一発電所と外山原取水施設は、明治30（1897）年に下野製麻株式会社が日光市所野に建設した工場の手力発電設備として始まりました。製麻工場の動力源だったのです。この地に製麻工場が建設された背景として、日光市に隣接する鹿沼市が麻の重要産地であったこと、軍需物資として麻製品の需要が高かったことが挙げられます。また、大谷川は河川勾配が急で落差を得やすく、中禅寺湖を水源として水量が安定しているなど、水力発電設備を設置する立地条件にも恵まれていました。

所野第一発電所と外山原取水施設はその後、帝国製麻株式会社、帝国電灯株式会社など管理者が変わりますが、昭和26（1951）年、電気事業再編成により東京電力株式会社に統合されました。

所野第一発電所の上流には昭和24(1949)年に赤沢発電所、下流には昭和20(1945)年に所野第二発電所、昭和27(1952)年に所野第三発電所が建設されました。大谷川から取水し赤沢発電所で使用した水を所野第一、第二、第三発電所と順に水路を通してつなぐ、所野系シリーズの発電所が完成しました。

現役最古の 発電用堰堤施設

所野第一発電所外山原取水施設は、外山原取水堰堤・排砂門、鳴沢川取水口および導水路、木戸ヶ沢水路橋、旧水圧鉄管固定台跡の4箇所が平成25(2013)年に選奨土木遺産に認定されました。土木学会は選奨理由を「現存する現役最古の発電用堰堤とその関連施設で、本邦水



左右に広がる練積コンクリート堰堤と排砂門



所野第一発電所。中央の色づいた木の下に
旧水圧鉄管固定台跡が見える



関東の土木遺産 第33回

水力発電黎明期の様子を伝える

所野第一発電所
外山原取水施設

栃木県

土木学会では現存する貴重な土木構造物を調査し、「日本の近代土木遺産」として発表しています。

それらの土木遺産の中でも特に価値あるとされるのが選奨土木遺産。第33回は栃木県日光市にある所野第一発電所外山原取水施設です。



力発電の黎明期の様相とともに時間流砂の深みが息づく貴重な土木遺産」と述べています。

所野第一発電所外山原取水施設は、同じ明治30年に完成し、現在も建設当時の取水堰堤を使用している中部電力岩津発電所とともに、現存する現役最古の発電用堰堤施設です。保存状態は極めて良好です。

外山原取水堰堤・排砂門は赤沢川に建設された重力式練石積堰堤です。自然石を乱積にした高さ3.73m、長さ26.7mの練積コンクリート堰堤と、切石を布積にした排砂門ピア（支柱）の2連からなります。

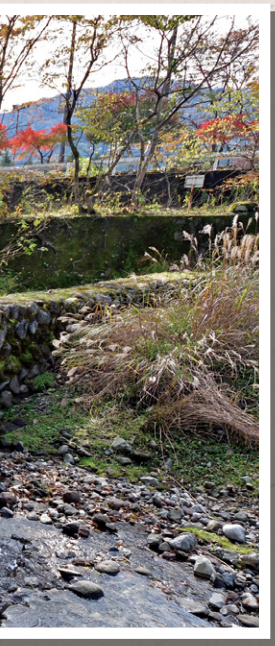
鳴沢川取水口および導水路、木戸ヶ沢水路橋はいずれも煉瓦構造物であり、煉瓦はイギリス積で組積されています。イギリス積は強度が求められる土木構造物に多く用いられる積み方です。旧水圧鉄管固定台跡も煉瓦で造られています。こちらは焼き過ぎ煉瓦が使われています。焼き過ぎ煉瓦は普通の煉瓦よりも高温で十分に焼き込んだ煉瓦です。普通の煉瓦よりも色が黒く、吸水性が低く、摩滅や衝撃に強いという特性から、水圧鉄管を固定する連結部分に使われています。

これからも 市民生活を支える施設として

所野第一発電所外山原取水施設は、所野系シリーズ発電所が完成した昭和27年以降は予備の取水施設として運用されています。日光市内の小学生が地域の歴史を学ぶ授業で見学に訪れたり、栃木県内の土木、電気、機械を学ぶ工業高校の生徒が見学に訪れることがあるそうです。

選奨土木遺産選考委員で足利工業大学工学部創生工学科の福島二郎准教授は、「過去を知ることが未来を考える材料の一つです。そのためにも土木遺産を残していくことは大切なこと。所野第一発電所外山原取水施設のように現在も稼働していることが大事なのです」と話します。

明治30年の完成以降、所野第一発電所外山原取水施設は大規模な改修はなく保存されてきました。これからも日光市内に電気を供給する重要施設として運用が続けられます。



星型のマークが象徴的な鳴沢川取水口。星型はこの地に工場を建設した下野製麻株式会社の社標である



取水口に残された銘板。
中央には「下野製麻株式会社水路」と
陰刻されている



旧水圧鉄管固定台跡。
昭和22(1947)年まで使用されていた

イギリス積煉瓦で組積された
木戸ヶ沢水路橋



選奨土木遺産の
認定プレート(銘板)

取水口から水路橋まで続く水路。側面と底には当時の煉瓦がそのまま使われている



会員のひろば

このページは
会員の皆さまの
投稿によるページです

「おいしいね！」

この一言が蕎麦打ちを続けてこられた原動力かもしれません。

会員の皆さまの中には蕎麦打ちを趣味とする方も多いと思います。中には玄人はだしの方もいると聞いていますので、私ごときがペンを取るのもおこがましいのですが、そこはご容赦願います。

きっかけは

趣味らしい趣味のない私が蕎麦打ちを始めたきっかけはいくつかあるのですが、第一は妻の勧め。十数年前、実家の近くに転居してきて周りに知り合いのいない妻が、地元のコミュニティセンターで開かれた一日蕎麦打ち体験に参加し、帰宅後「あなたも何かやった方がいいんじゃないの（言外に「老後私にべったりはいやよ!」）」と言ったことです。また、当時は両親が存命で、特に母はよくうどんを打っていましたが、「蕎麦は切れてしまって難しい」と言っていたので、母が手を出さない蕎麦を打ってみたいと思っていたこと。そして何より、「蕎麦が打てるってちょっとカッコいいんじゃない!」というミーハー的な動機が相まってのことでした。

妻から聞いた蕎麦打ちの倶楽部は、ほとんどの方がリタイア組で当時私が最年少者。厨房へ男子はいるべからずの方もいたようで、蕎麦打ちの腕も私が言っでは失礼

ですがまちまちでしたので、逆に気軽に溶け込めた次第です。

入会当初は指導していただいたことを忘れてはいけないと、家に帰ってからパソコンで記録し、毎回毎回追加修正していきましたが、これが手順を覚えるのにだいぶ役立ちました。このレシピは今でも残っています。歳をとってくると、そのとき分かったつもりでも次回には忘れていることが多く、復習的に文字にするのは有意義なことだと改めて気づかされました。

蕎麦打ちはデリケート

蕎麦粉は主に金砂郷（常陸太田市）産の常陸秋蕎麦を使い、外二八（蕎麦粉1に対し、つなぎ粉が0.2）で打っています。

蕎麦はなかなかデリケートなもので、最初に水を入れて混ぜる「水回し」の水の量が、粉の状態やそのときの気温、湿度などによって微妙に異なります。これがうまくいかないとその後の工程全体に影響しますが、決まったときにはその後の工程が気持ちよく進みます。未だにそのようになることはなかなかないのですが、そのあたりも蕎麦打ちの面白さかもしれません。

また、麺はいわゆる江戸風にできるだけ細く切るようにしていますが、最近は目と根気がなかなか追いつかず、気合いを入れて臨みます。仕事もこれくらい気合いが入れば（おっと!）。

余録

この倶楽部では、秋蕎麦のオフシーズンである夏から秋にかけては蕎麦打ちを行わず専らうどんを打つのですが、派生してラーメンも打ったりします。個人的にはさらに派生してパスタも打ちます。蕎麦はもちろんですが、うどんもラーメンもパスタも打ち

ゆるくながく 蕎麦打ちは楽し



渡邊猛雄

（一社）関東地域づくり協会 理事・総務部長
元関東地方整備局 総務部総括調整官

おいしい蕎麦まであと一歩!



サークルは前述のとおり、比較的ゆるいサークルで、段位を取ることを目的にするでもなく、蕎麦打ちもさることながら打った後の試食兼反省会（と称する飲み会）が楽しみの半分以上を占めている会員も多くいます。このときの酒の肴も当番で会員が作りますので、料理も少しは覚え、家庭円満？に何かと役立っています。

こんなゆるさや蕎麦以外の楽しみがあることもずっと続いてきた理由かもしれません。目が衰えても、根気がなくなっても、よい蕎麦粉（こが肝心）で打ちたて茹でたてをたぐればおいしいもの。月並みですが蕎麦だけに、これからも「細く長く」、もとい、「ゆる一く、なが一く」続けていけたらと思っています。

道の駅を拠点に、 常陸太田の農業と 観光を盛り上げる!

道の駅「ひたちおおた」(茨城県常陸太田市)は、茨城県内で13番目となる道の駅として誕生しました。休憩所の他にレストラン、フードコートが充実しており、曜日にかかわらず賑わっています。地元で収穫された野菜や特産の果物をはじめ、観光スポットなどの紹介にも力を入れている道の駅「ひたちおおた」の取り組みをご紹介します。

場では、農業関係の専門学校の卒業生が栽培管理を担当しています。「トマトハウスでは、大玉、中玉、3種のミニトマトからお好きなものを収穫・購入いただけます。摘み取り体験は大人気で、皆さまに喜んでいただいています」と話すのは、スタッフの松尾譲二さんです。ひたちおおたの大地で育ったトマトは、味も抜群! レストラン「ShunSai (シュンサイ)」やフードコートのラーメン店、パン屋などでも、このハウスで収穫されたトマトを使ったメニューを楽しめます。

清潔で快適な施設。 誰もが使いやすく、楽しめる場所にしたい

もう一つの同駅の目的は、交流人口の拡大です。「施設内には、コンシェルジュを配置し、バンジージャンプで話題の竜神大吊橋や水戸黄門ゆかりの西山御殿、ぶどうや梨などの観光果樹園など、市内の観光スポットをご案内しています。ここから旅を始めていただけるよう、パンフレットなども充実させています」(松尾さん)

訪れた人と常陸太田を深く結びつける道の駅「ひたちおおた」。松尾さんに今後の抱負をお聞きました。

「道の駅は休憩機能も備えていますから、清潔で快適な施設を維持することも大切です。誰もが楽しめて、憩いの時間を過ごせる空間づくりに全力で取り組んでいきます」

ピックアップ

第11回

関東の道の駅

道の駅 「ひたちおおた」



イベント広場、トマトハウスなど、訪れた人が楽しめる仕掛けがたくさん

直売所、レストラン、フードコート 常陸太田の大地の恵みを堪能できる機能が充実

東京方面からは常磐自動車道の那珂ICより20分、福島県いわき市方面からは日立南太田ICから20分。茨城県北部に位置する常陸太田市にあるのが、道の駅「ひたちおおた」です。

平成28年7月21日にオープンし、翌年の8月4日には来場者100万人を突破しました。225台が駐車でき、水戸や土浦などの県内ナンバーはもちろん、福島方面や千葉方面などの県外ナンバーも見受けられ、平日でも多くの人で賑わっています。

施設面積は1,814㎡。コンビニをはじめ、旬の農産物や加工品、特産品をそろえた直売所や、地元の旬の野菜を味わえるレストラン、常陸秋そばや里美ジェラートが楽しめるフードコートなどの食事処も充実しており、常陸太田を堪能することができます。

常陸太田市農政部の富田修係長にお話を伺いました。「当駅の目的の一つは、本市の基幹産業である農林畜産業の振興です。農産物の出荷者は少しずつではありますが増えてきている状況です。また、担い手の育成・確保や農業者の所得向上を目指して農業講座やハウスの栽培講習会などを行っています」

さらに、年間を通してトマトの摘み取り体験が行える体験ほ



常陸太田のおすすめスポットを教えるコンシェルジュが常駐している

スタッフの松尾譲二さん。
「お客様の声を聞き、よりよい施設にしていきたい」



常陸太田特産の星霜(ほししも)柿。実が大きく種なしで甘いのが特徴



常陸太田市内の朝採れ野菜や旬の果物を、同市と連携事業で交流のある東京都中野区の各商店や店舗に配送。荷物は、茨城交通が運行する高速バスのトラックに載せている。売れ行きは好調だそうだ



来場者数100万人を達成し、大久保太一常陸太田市長とともに盛大に祝った

大玉、中玉、ミニトマトの収穫体験ができるトマトハウス

